

平成31(2019)年度 江戸川区立葛西小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○心ゆたかな子ども ○よく考える子ども ○最後までやり抜く子ども ○健康な子ども	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	保護者にとって、子どもを通わせてよかった、と思える学校 「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた子ども 人権尊重の精神に富み、自身の職務に専念し、児童・保護者から信頼される教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 全教員が授業力向上に向け、研修・研究に励み、授業実践に向かったことで、児童が学習規律を確立し落ち着いた学びに向かう姿勢が育った。いじめに対する未然防止・早期発見・早期対応を全教員共通理解のもと実践し、児童が安心して学校生活を送ることが出来た。 <課題> 併設型小中学校の開設を生かした、教育活動の計画・実行。児童の運動能力の維持及び取り組みの工夫。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	授業参観・情報交換 小中担当者の情報交換 児童生徒の活動計画と推進	始業式、修了式の合同実施 避難訓練の合同実施…年3回以上 児童・生徒の交流…3回以上	A	A	○中学校研究授業への参観、中学生の読み語り部の小学校での活動、小中連携担当の情報交換実施 ○始業式、終業式、避難訓練1回合同実施。 ○英語の乗り入れ授業、小学校の研究授業や初任者の授業への中学校の参観。中学校の指導教諭の授業参観等、教員同士の交流。	A	英語の取り組みが良い成果につながると大いに期待して。英語のように、小学校のうちに数学の先生による授業を事前に体験できれば、6年生の算数から数学への不安を少しでも解消できるのではないかと。	英語の乗り入れ授業は継続して行う。 校内研究の算数を活用し、中学との系統性のある指導を進める。
	国際理解教育の推進	日本語学級との交流活動による国際理解の醸成とグローバルな視野を持つ児童の育成	授業参観…学校公開時(保護者、教員) 国際理解教室での児童同士の交流	日本語通級児童担任の参観…学期1回 理解教室の感想文…全児童	B	B	○日本語学級の学校公開実施。 ○国際理解教室での10か国以上の児童との交流により、他国の文化の違いを実感。 ●在籍学級担任の通級との情報交換が困難。	B	浮かび上がった課題の解決に向けて努力していただき、良い結果にむずびつづくよう取り組んでいただければよいと思う。	学年を絞って、国際理解教室を実施。児童に身近な国際感覚を養う。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	教室のタブレットPCの活用…週1回以上 ICT校内研修会の実施…年3回 eライブアプリ…補習…3年以上年2回	校内研や学校公開で活用…全学年 ICT活用できる児童…低3割、中6割、高8割	A	B	○校内研修、補習授業は予定通り実施。 ○タブレットの活用は全学年積極的な活用。	B	児童一人に1台のタブレットPCが配布され、今回のように休業となってしまうと、それを自宅で活用し自宅で学習できるような取り組みが加速すると思われる。その先頭に立つ教員の力量もスキルアップが求められるようになる。現在の取り組みやそのスピードが重要になるであろう。	情報教育推進を強化するために、推進者を複数配置し、積極的な研修や情報提供を行う。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	生活指導部とタイアップした月1回以上の特別支援教育委員会開催 コーディネーターによる伝達講習実施 ユニバーサルデザインを考慮した教室環境整備…通年	保護者アンケートで肯定的評価 8割以上	B	B	○特別支援委員会は適宜開催し、情報共有の機会が増加。 ○教室環境は、学年統一して配慮。 ○保護者アンケートでは95%の肯定的評価。 ●インクルーシブ教育に対する保護者の要求への組織的な対応。	B	浮かび上がった課題の解決に向けて努力していただき、良い結果にむずびつづくよう取り組んでいただければよいと思う。	課題のある児童の日常の行動記録等を細かくとっていき、相談体制の整備と記録の活用で、各々の児童にあった継続的な指導ができるようになる。
	巡回指導との連携	巡回指導の活用と巡回指導教員との報・連・相	障害特性に応じた個別指導 在籍学級における担任と連携した集団の中での支援…通年	巡回指導教員による研修会の開催…1回以上 指導記録の共有…毎回	A	B	○巡回指導教員との日々の密な連携の実施。 ○困り感のある児童の、支援の充実と、担任の意識の向上。	B	浮かび上がった課題の解決に向けて努力していただき、良い結果にむずびつづくよう取り組んでいただければよいと思う。	巡回教員による研修会を行い、特別支援教育に対する教員の理解を深める。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	放課後補習授業…年35回以上 サマースクールの実施 全教員の授業公開…年1回以上	漢字コンクール…9割以上合格85%以上 都学力調査…D層25%以下	A	B	○放課後補習教室、サマースクールの完全実施。 ○全教員の授業公開は年1回以上達成。 ○漢字コンクール全校82%、5、6年88%合格。	B	学力の向上は誰もが期待している課題である。併設型となった今、地域から寄せられる期待も大きくなっている。そのような中、大規模校ならではの難しさもあるだろうが、目標を高く取り組んでほしい。	漢字コンクールに代わる基礎基本の継続を図る取り組みを取り入れる。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実	図書館での読書活動…月1回以上 図書館活用調べる学習実施…高学年月1回以上	調べる学習参加…50人以上 年間読破…低50 中40 高30	A	A	○低学年での読書活動は月3回以上実施。 ○調べる学習相談会は夏季休業中にも実施。参加50人以上達成。	A	今後も継続して良い結果が得られるように取り組んでほしい。	調べる学習は継続させていく。低学年からの取り組みを工夫する。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	体育の時間の持久走…月1回 休み時間の運動遊びの実施…全学年	持久走大会の記録…各学年前年度よりもアップ	B	B	○運動遊びは全学年実施。 ○持久走は月1回実施。 ●中学との校庭、屋内運動場の計画的活用で休み時間の運動遊びを活性化。	B	校庭が完成し、来年度の取り組みに期待する。校庭・屋内運動場・空きスペース等を利用する際、すくすくスクールの児童と、クラブ活動の中学生が安全にお互いが力いっぱい活動できるように配慮が必要である。	全校運動遊びを計画的に行い、日常の体力向上に努める。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	パラリストを招聘した体験学習…年3回以上 オリパラコーナーの充実…通年 ボランティア活動…4年 挨拶運動…年3回	体験後の児童全員の肯定的な感想 オリパラ誌本を活用した授業…4、5、6年 全クラス実施 オリパラコーナーの全学年の活用 図書館「オリパラ図書」の活用…全クラス	C	C	○1学期の挨拶運動は実施。 ○思いやり活動の実施。 ●体験活動やボランティア活動は未実施。 ●オリパラコーナーの未設置箇所の充実。	C	オリパラ教育の推進は難しい課題だと考えている。オリパラの開催が近づくにつれて中、情勢は不透明であるが、子供たちの気分が高まるような取り組みをお願いしたい。	中学と連携した挨拶運動の実施。 図書館オリパラコーナーを活用した学習の充実。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	給食、休憩等ALTとの交流…通年	ALT作成教材及び視聴覚教材や電子黒板等ICTの活用…毎時間	A	A	○ALTとの交流は適切に実施。 ○6年の中学校の英語教員の授業体験。 ○視聴覚教材を活用した授業は全クラス実施。	A	低学年で培った「英語を話すことは楽しい」といった思いを、最終学年まで持つよう、授業の進め方を考えていただきたい。	中学の英語教員による乗り入れ授業を計画的に実施。
健全育成の充実	いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	生活指導朝会…毎週 ケース会議…随時	いじめ不登校早期発見解決 いじめ0・不登校 0	A	A	○教員同士の情報交換、ケース会議等は、適宜実施。 ●不登校児0から不登校児3名。1名は改善。 ●いじめ63件を認知、解決済み。	A	いじめの要因は社会を取り巻く問題等により変化する。想定できるいじめは、事前に発生しないような取り組みや環境づくりが大切である。	日常的な教員による校内巡回の強化と情報共有。年3回のアンケートの確実な実施と結果の活用。